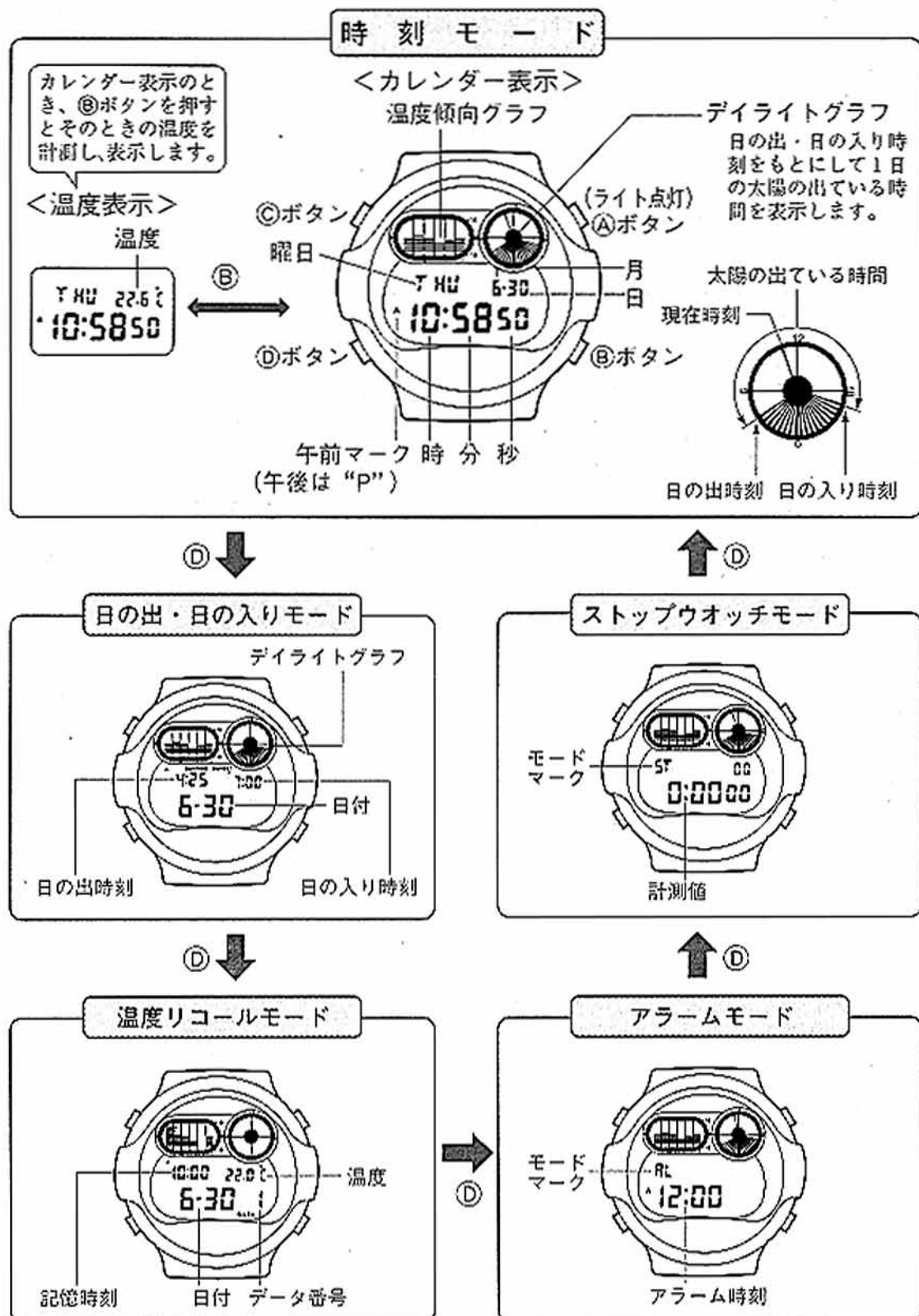


印刷物をスキャニングして作成しているため、画質が悪くなっております。200%に拡大してご覧ください。

操作のしくみと表示の見方

①ボタンを押すごとに確認音が鳴り、以下の順で表示が切り替わります。
※各モードでその機能を使用したあとに①ボタンを押すと、直接時刻モードに戻ります。



印刷物をスキャンして作成しているため、画質が悪くなっております。200%に拡大してご覧ください。

時刻・カレンダーの合わせ方

電池交換後などで時刻やカレンダーが合っていない場合は、以下の方法で合わせてください。
なお、月に1度くらい秒合わせをいただくと、時刻はいつも正確です。

準備：セット表示にする

時刻モード<カレンダー表示>のときに、

③ボタンを押します

→「秒」が点滅します。

★このとき、③ボタンを2回押すと点滅が止まります。

※点滅表示のまま、2～3分経過すると自動的に点滅が止まります。

時刻モード<カレンダー表示>



●秒のセット…±30秒以内の遅れ/進みの調整

「秒」が点滅しているとき、

時報に合わせて③ボタンを押します

秒が00～29のときは切り捨てられ、30～59のときは1分くりあがって「00」秒になります。

※時報は「時報サービス電話117番」が便利です。

★秒合わせ後、③ボタンを2回押すと点滅が止まります。

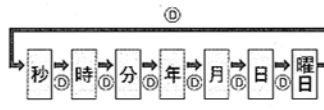


●時・分・年・月・日・曜日のセット

(1)「秒」が点滅しているとき、

④ボタンを押します

④ボタンを押すごとに点滅箇所が以下の順で移動しますので、セットしたい箇所を点滅させます。



★12/24時間制表示切り替え
秒、時、分のいずれかが点滅しているときに④ボタンを押すと、12時間制表示(A/P)と24時間制表示(24)とが切り替わります。

(2) 数値セット

セットしたい箇所が点滅しているとき、

⑤ボタンを押します

→⑤ボタンを押すと、数字が進み、押し続けると早く進みます。

(1)～(2)の操作をくりかえし、時・分・年・月・日・曜日を合わせます。

★「時」のセットのとき、午前(A)/午後(P)、24時間制(24)にご確認ください。

★「年」は西暦で1990～2029年までセットできます。

★カレンダーはうるう年および大の月、小の月を自動判別するフルオートカレンダーですので、電池交換時以外は修正不要です。

(3)すべてのセット終了後、⑤ボタンを2回押します。

→15秒間の計算表示の後、点滅が止まります。



アラームの使い方

…時刻モードのときに④ボタンを3回押すと、アラームモードになります。

アラームは分単位でセットでき、セットした時刻になると20秒間の電子音で知らせます。また、毎正時(00分)に時報を鳴らすこともできます。

●アラーム時刻のセットのしかた

(1) セット表示にする

アラームモードのときに、

③ボタンを押します

→アラーム時刻の「時」が点滅し、「ALM」が点灯します。

★このとき、④ボタンを押すごとに点滅箇所が「時」⇒「分」で移動しますので、セットしたい箇所を点滅させます。

※点滅表示のまま、2～3分経過すると自動的に点滅が止まります。

アラームモード



アラームマーク

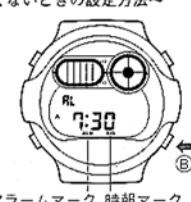
●アラーム・時報のON/OFF設定

～アラーム・時報を鳴らしたいとき、鳴らしたくないときの設定方法～

アラームモードのときに、

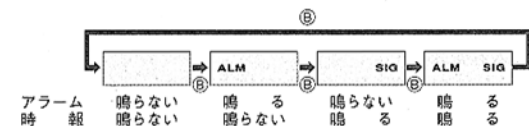
⑤ボタンを押します

→⑤ボタンを押すごとにアラームマーク(ALM)、時報マーク(SIG)が点灯/不点灯をくりかえします。



アラームマーク 時報マーク

★アラームを鳴らしたいときは「ALM」、時報を鳴らしたいときは「SIG」を点灯させます。それぞれのマークを消しておく、アラーム・時報は鳴りません。



●鳴っている電子音を止めるには

④⑤⑥いずれかのボタンを押します。

ストップウォッチの使い方

…時刻モードのときに④ボタンを4回押すと、ストップウォッチモードになります。

ストップウォッチは、1/100秒単位で23時間59分59秒99(24時間計)まで計測でき、以後、自動的に0に戻って計測し続けます。

●計測のしかた

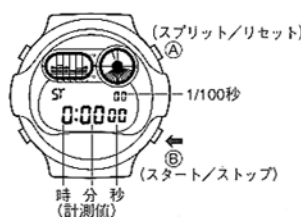
⑥ボタンを押すごとに計測がスタート/ストップします

★計測中④ボタンを押すと、スプリット計測となり、もう一度④ボタンを押すとスプリットが解除されます。(スプリット計測中は、表示は止まりますが内部では計測を続けています。)

★計測終了後④ボタンを押すと計測値が0に戻ります。

※④・⑤ボタンともそれぞれ押すと操作確認音が鳴ります。

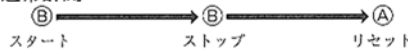
ストップウォッチモード



(スプリット/リセット)

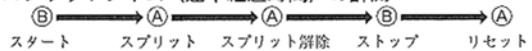
(スタート/ストップ)

●通常計測

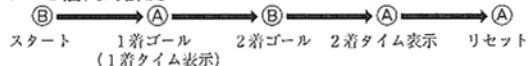


※積算計測…ロスタイムがある場合は、ストップ後リセットせずに再スタート(⑥ボタンを押す)すれば、表示タイムに引き続き計測を始めます。

●スプリットタイム(途中経過時間)の計測



●1・2着同時計測



印刷物をスキャンして作成しているため、画質が悪くなっております。200%に拡大してご覧ください。

温度計測について

本機には温度センサーが内蔵されており、常時2分おきに時計内部の温度を計測し、時刻モード<温度表示>で表示します。また、あらかじめ設定した時間の温度を記憶する温度メモリー機能もついています。

●温度表示するには

時刻モード<カレンダー表示>のとき、

③ボタンを押します

→<温度表示>となり、そのときの温度を計測/表示します。以後2分おきに温度を計測/表示します。

※場合により2分おきに計測しないことがあります。故障ではありません。

時刻モード<カレンダー表示>



時刻モード<温度表示>



●温度表示の見方

現在温度は0.1℃単位で表示されます。(右図参照)

※温度の表示範囲は-20.0℃～60.0℃です。この範囲を超えると“—”と表示されます。温度が表示範囲内に戻ると、通常に表示します。

★温度傾向グラフの見方

現在温度(右端)を基準として、毎正時の温度データ(過去5時間以内)と比較し、その差を2℃単位で表示します。(1目盛=2℃となります)

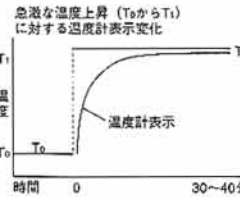
●ご注意

温度センサーは、時計に内蔵されているため、本機に表示される温度は時計自体の温度となります。急激な温度変化が起きても、その温度を表示するまで(時計内部の温度がその温度になるまで)約30～40分程度かかります。また、体温(腕につけているとき)、直射日光、水滴等の影響を受けますので、正確な温度を計測する場合は、時計を腕からはずし、風通しのよい日陰で水滴をよくふきとってから計測してください。

<参考> 以下の場合、正確な温度を表示しないことがあります。それぞれのグラフを参考にして温度の目安にしてください。

●急激な温度変化があった場合

時計自体の温度が実際の温度と同じになり、正確な温度を表示するまで約30～40分程度かかります。



●腕につけたまま温度(気温)を計測する場合

本機を腕につけているときは、体温などの影響により正確な温度を計測できないことがあります。



●温度メモリー

●記憶する時間の間隔を選ぶ

工場出荷時(電池交換後)は1時間(1:00)がセットされています。他の間隔(10分、3時間、24時間)に変えたいときは以下の手順で行なってください。

準備: ①ボタンを押して、温度リコールモードにします。

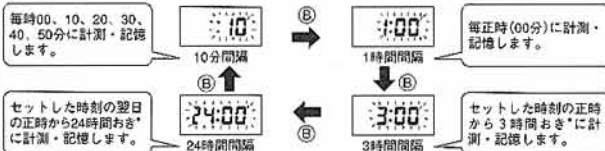
(1) 温度リコールモードのとき、

③ボタンを押します

→間隔時間が点滅します。

(2) **⑤ボタンを押します**

→⑤ボタンを押すごとに間隔表示が以下のように切り替わりますので、好きな間隔を選び、表示させます。



※例えば、午前8時48分に“3:00”に間隔を変えたときは、午前8時から3時間後の午前11時から3時間おきに温度を記憶していきます。また同じ時刻に“24:00”に間隔を変えると、翌日の午前8時から24時間おきに温度を記憶します。

(3) 間隔を選びましたら、

③ボタンを押します

→温度リコールモードに戻ります。

※以後、選んだ間隔で温度を記憶していきます。

※セット表示のままにしておくと、2～3分後自動的に点滅が止まり、温度リコールモードに戻ります。

●温度調整のしかた

本機は工場出荷時に温度調整してありますので、温度調整を行なう必要はありません。ただし、本機が表示する温度が、信頼ある正確な温度計の表示する温度と大きく異なるときは、以下の手順で温度調整を行なってください。

準備: 「●温度表示にするには」を参照して時刻モード<温度表示>にします。

(1) <温度表示>のとき、**③ボタンを押します** →温度が点滅します。

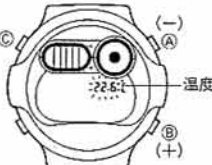
(2) 温度値のセット

⑤または④ボタンを押します

数字を進めるときは⑤ボタン、戻すときは④ボタンを押します。

※いずれも押すごとに0.1℃ずつ進み、押し続けると早く進みます。

※調整できる範囲は、表示している温度の±9.9℃以内となります。



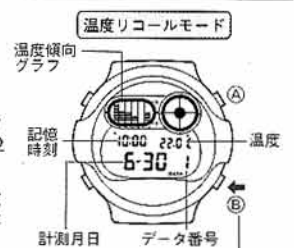
●記憶された温度を見る

温度リコールモードのとき、

③ボタンを押します

→③ボタンを押すごとに最新のデータ(データ番号1)から1つずつ前のデータを表示していきます。

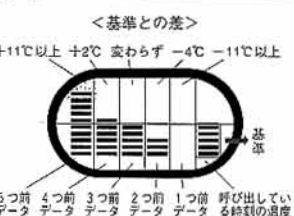
※④ボタンを押すと逆方向に進みます。⑤・④ボタンとも押し続けると早く進みます。



●温度リコールモードでの温度傾向グラフは

グラフ右端の温度を基準として、それ以前に記憶された温度と比較し、その差を2℃単位で表示します。

注) 基準と比較して温度差が+11℃以上のときはグラフ表示がすべて点灯(一番上は点滅)します。また、-11℃のときはすべて不灯となります。



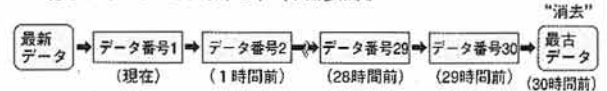
●データ入れ替え

計測した温度は、自動的に最大30本まで記憶されます。

記憶数が30を超えると、データ番号1に最新データが記憶され、以後、順番に番号がくりさがり、一番古いデータ(データ番号30)が消えます。

※温度データを任意に消すことはできません。

例: 間隔を“1:00”にしているときは、常に過去29時間分の温度データが記憶されていることになります(下図参照)。



★誤ってセットしてしまったら

温度が点滅しているとき、

④・⑤ボタンを同時に押します

→工場出荷時に調整してある基準温度に戻ります。

(3) セットが終わりましたら、

③ボタンを押します

→点滅が止まり、<温度表示>に戻ります。

※セット表示のままにしておくと、2～3分後自動的に点滅が止まり、温度表示に戻ります。

●温度調整時のご注意

- 信頼できる正確な温度計と比較して行なってください。
- 本機を腕からはずし、30分以上放置して温度を安定させてから行なってください。
- セット操作は速やかに行なってください。体温の影響により温度が変化してることがあります。

